

社寺空間等の活用形態に関する現況調査*

Investigation of present situation about practical use shrine and temple areas

○松山 正將** 花渕 健一** 菊地 清文** 佐伯 吉勝**

by

Tadamasa MATSUYAMA, Kenichi HANABUCHI, Kiyonori KIKUCHI and Yoshikatsu SAEKI

概 要

豊かな自然環境や歴史的環境は、私達一人一人の人格形成に大切であり、こうした環境を備えた「まち」の潜在的教育力は、次の世代の地域の担い手を育み、環境への深い慕いと保全への行為に価値を見出だす人格を育てると言われている。旧仙台市域の社寺空間や保存緑地をこのような視点で、環境教育空間、歴史や郷土史の教育空間、緑のネットワーク空間そして祭りなど地域の集いの核となる舞台空間として利活用の可能性を引き出すことが必要に思われる。

著者等はこのような考え方に基づき、旧仙台市域の社寺空間と保存緑地の現況調査を行なっている。本報告では、これら調査で得られた知見について述べるものである。

1：はじめに

市街地に散在するさまざまな空間（社寺境内、保存緑地、広場、公園、街路、公的施設構内緑地等々）を、その地域の諸活動を支える基盤的空間の一つと位置付け、積極的な利活用が必要に思われる。

本報告は、市街地にある社寺境内や保存緑地等の現況調査から得られた知見を、「まちづくり」に関する啓蒙・啓発資料として、又広場や公園等の空間づくりに生かす資料として、その情報作成について述べるものである。

2：調査対象地域

仙台の市街地には藩政時代と関わりの深い神社（約100）や仏閣（約200）が数多く存在する。調査は先ずこれらの中から、保存緑地や風致地区などに指定され、公的性格が比較的高い社寺空間を選び出し、対象地域を図-1に示す□印の大年寺山、愛宕山、亀岡八幡宮、文殊堂、大崎八幡宮、輪王寺、青葉神社、東照宮と○印の仙台城址（護国神社境内を含む）地域とした。

3：調査方法

最新の国土基本図（縮尺1/2500）や数値地図（標高：50m、200m）そして

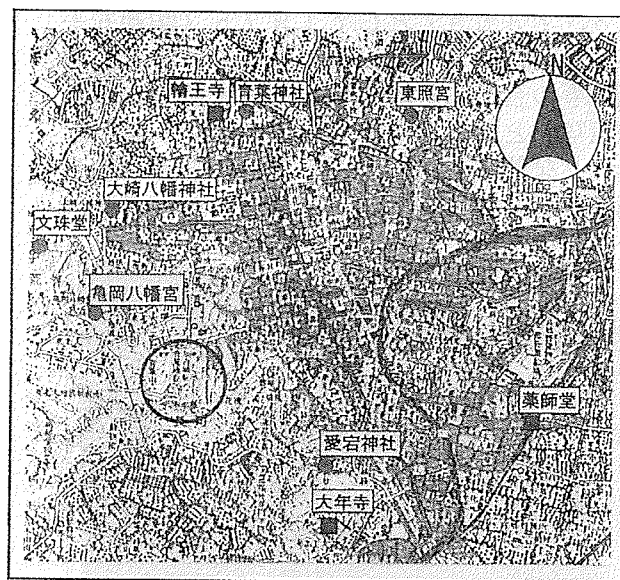


図-1 主な社寺空間調査対象地域

古絵図、郷土史文献等を参考に現地踏査による現況把握と、管理者からの聞き取りにより資料の収集と充実を図った。また、参道形態や境内樹木の詳細把握の必要性がある場合は、測量による地形の把握及び毎木調査そして利用者観測等を行なった。

調査が先行している大年寺山と仙台城址地域については、地理情報システム（GIS）を用いた啓蒙・啓発情報づくりの試みについて例示する。

*Keyword: 社寺空間、保存緑地、環境教育、郷土史教育、まちづくり

**正会員 東北工業大学 工学部 土木工学科 環境測量研究室

〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1 ☎022-229-1151(大)FAX:022-229-8393(研)

4：調査結果

ここでは境内空間をうまく利用している事例として「東照宮」を、その逆の事例として「亀岡八幡宮」、また開発計画が進行しつつあり、市民への啓蒙情報が必要な大年寺山地域と仙台城址地域について報告する。

(1)東照宮

東照宮は、1591（天正十九）年徳川家康が仙台藩北部の葛西大崎一揆の視察を終え帰途の折りこの地に休息したことに由来し、第二代仙台藩主伊達忠宗が1649（慶安二）年に普請を始めて、1654（承応三）年に完成させたものである。往時の祭礼は、「仙台祭り」といわれ各町より山鉦などが出され、藩からは名代の奉幣があり、その豪華さは領内唯一と言われた。東照宮の唐門、瑞垣、石鳥居は1953（昭和二十七年）年に国の重要文化財に指定、桜門は同年、手水舎は1964（昭和三十九）年に宮城県文化財に指定されている。

尚、この境内は仙台市の9番目の保存緑地（3.73ha）として1975（昭和五十）年指定されている。したがって、神社の年間行事の合間に近隣小学校の樹木観察授業や散策空間として利用する市民も多い。特にユニークな催しものは、15年ほど前から毎月第四日曜日に開催される「仙台古美術骨董の



写真-1 東照宮の参道の賑わい

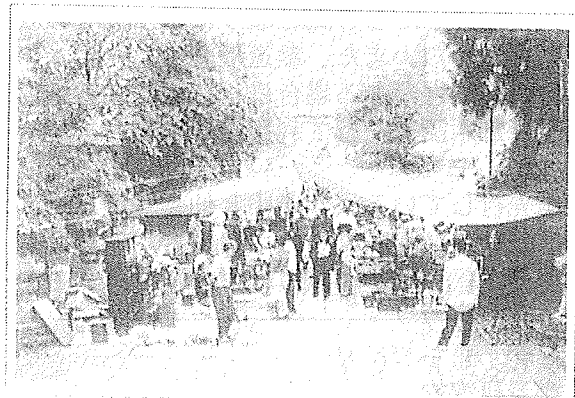


写真-1 東照宮の参道の賑わい

青空市」である。毎回朝早くから大勢の人が集い、午後3時ごろまで参道はその人々で賑わいを呈している（写真-1）。現在調査を始めて3年目であるが、この東照宮のある宮町町内の活性化策の一つとして、出店者と来客者へのアンケート等を行い、広報のための具体的情報づくりを試みている。図-2は、その作品の一つである。



図-2 広報試作用パンフレット

(2)亀岡八幡宮

亀岡八幡宮は、伊達氏一世伊達朝宗からの結びつきの深い神社で、仙台藩の四代藩主伊達綱村が1683（天和三）年現在地に遷宮した。宝物の刀剣「備前長船義光」は国宝、石鳥居は宮城県の重要文化財である。鎮守の森にふさわしい広大な境内にも関わらず、管理者が常駐していないことから、本殿や社務所そして参道石段等の諸施設及び樹木も放置状態にあり、荒廃顕著でもの寂しい空間となっている。周囲が住宅地に関わらず、このような状況を反映して利用者は少ない。時折、通行人が観測される状態である。また、神橋下を流れる沢にはゴミの不法投棄も見受けられ、結果的雰囲気は皆無に近い。

しかし、参道中間に位置する二ヶ所の広場（約220㎡で約67坪、約1760㎡約530坪）については、活用可能で有効な資源の一つと判断された。

図-3に、概略ではあるが平面図と縦断面図を示す。現況状況をまとめて、東照宮資料とともに図-4と表-1に示す。

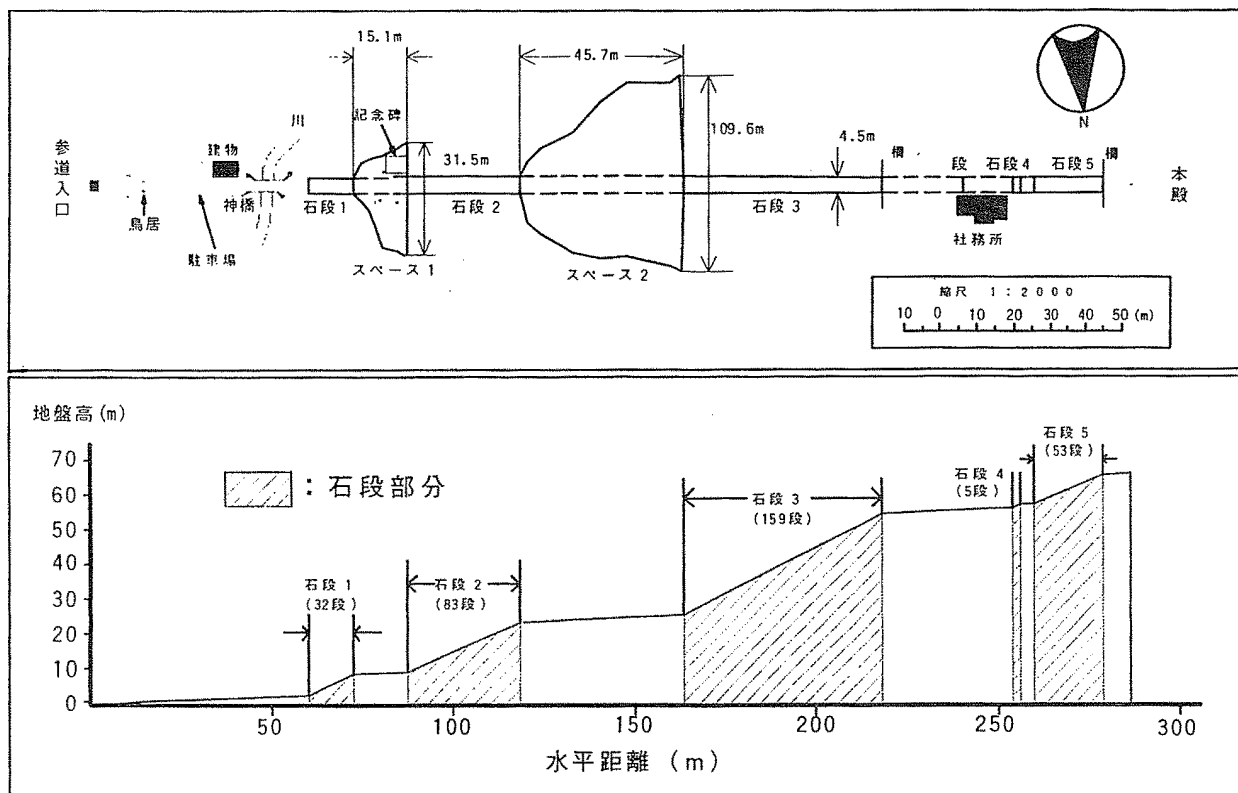


図-3 亀岡八幡宮の概略平面及び縦断面図

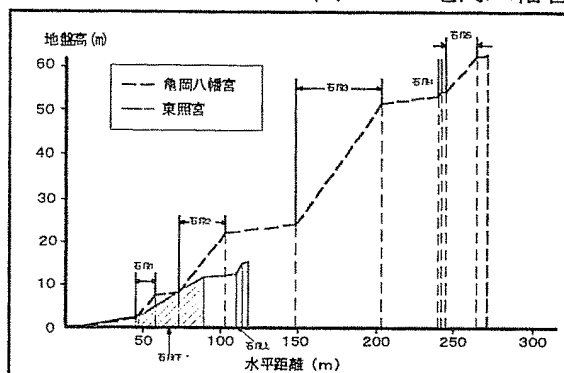


図-4 東照宮と亀岡八幡宮の縦断比較

表-1 東照宮と亀岡八幡宮の現況状態

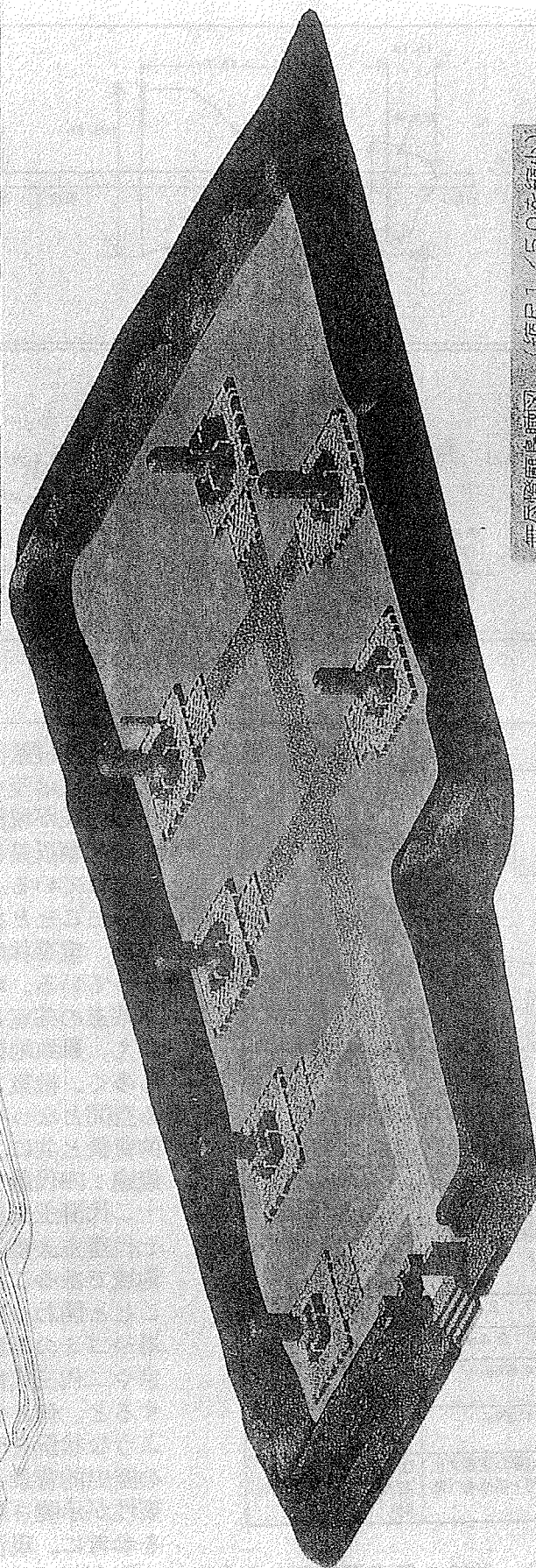
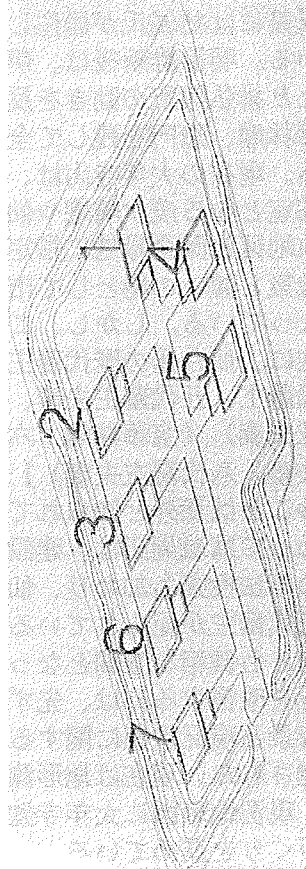
		東照宮	亀岡八幡宮
駐車場		第1、第2駐車場有り	正式な駐車場はない
アクセス		仙山線東照宮駅下車 徒歩5分	市営バス老人福祉セ ンター前下車 徒歩10分
参道距離		117.24m	217.88m
参道高低差		15.24m	62.69m
勾配	石段の 平均	45%	47%
	参道 全体	13%	23%
指定文化財		石鳥居（国の重要文化財）、桜門・手水舎（県文化財）	宝物の刀剣（国宝） 石鳥居（県重要文化財）

(3) 大年寺山地域

大年寺山の名称は、前述の伊達綱村が1695（元禄八）年に建立に着手した両足山大年寺に由来して呼称されたようである。それ以前、

この地域は茂ヶ崎と呼ばれていたようで北朝方の栗野氏が城柵を築いて本拠地としており、この南北朝以後には結城氏が居住していたとも伝えられている。明治維新後は、伊達家の庇護を失ったことと排仏毀釈の動きを反映して、無尽燈廟、宝華林廟、惣門を残して全て廃絶してしまっている。現在の大年寺山は、野草園をはじめ茶道の茶室となる茂ヶ崎庵や仙庵の施設をそなえ、風致地区と保全緑地に指定されるなど緑も多く、散策と憩いの場として市民に親しまれる空間となっている。しかし、このような歴史的背景と共に、仙台藩の歴代藩主墓域【（無尽燈廟：四代藩主、五代藩主夫妻、十代藩主夫妻十二代藩主夫妻）（宝華林廟：六代藩主夫妻、七代藩主夫妻、八代藩主夫妻）】のある貴重な地域であることは意外と知られていない。そのことと関わって墓域周辺は、建設資材等の仮置場やゴミの不法投棄も加わり、仙台藩祖伊達政宗や二代三代藩主が祀られている経ヶ峰と比較すると、何とも貧相な空間となっている。このような状況を改善するには、先ず大年寺山地域の歴史的背景と現況状態に関する啓蒙情報の必要性が示唆された。現在は地形測量と古絵図等を参考に、現況地形図に大年寺伽藍位置を重ねる複合図づくりを進めている。図-5は、墓石等の詳細調査資料を加え作成した情報の一例で、石燈籠を除いた無尽燈廟内の鳥瞰図である。

塔主名	実名	番号	墓石の特徴
四代藩主	酒村	1	墓石後部の穴が大きい
五代藩主	吉村	2	後部墓石の破損が大きい
六代藩主	吉子	3	ほぼ八の字が多い
七代藩主	斎宗	4	左側墓石の破損が大きい
八代藩主	吉子	5	墓石の位置がずれている
九代藩主	斎宗	6	ほぼ八の字が多い
十代藩主	斎宗	7	後部墓石の亀裂が多い



無尽燈廟鳥瞰図 (縮尺1/50を縮小)

図-5 大年寺山地域の伊達家「無尽燈廟」鳥瞰図

(4)仙台北城址地域と情報づくり

仙台北城とは大きく本丸と二の丸を総称したものであり、本丸は初代仙台北藩主伊達政宗が1600（慶長五）から1610（慶長十五）年にかけて青葉山山頂付近に築いたものである。二の丸は二代藩主伊達忠宗が、大阪夏の陣以後の太平の世に対応させた居館として青葉山山麓に1638（寛永十五）年から1639（寛永十六）年までに築いたものである。これら仙台北城の最大の特徴は、自然地形を巧みに利用した防備性と御裏林の湧水を水源とする水利用システムをあげることができる。

本丸建物は、明治維新から1875（明治8）年頃までに全て破却されたようである。二の丸は陸軍に使用されていたが、1882（明治十五）年の火災でほとんどの建物が焼失、1945（昭和二十）年の空襲では残っていた大手門と脇櫓も全焼してしまった。しかし、仙台北城は市民から「青葉城」の名で親しまれ杜の都仙台北市のシンボルとして、また全国から数多くの観光客を集め、近世城郭の史蹟としても価値が

高い城址であることは間違いない。このことは現在進められている、本丸北面石垣修復事業に伴う、発掘報告からも確認できる。

著者等は1990（平成二）年度より、この地域の現況把握と史蹟保護、自然環境保全の視点で調査を進めている。調査は地形測量と毎木調査を基本に行い、これまで23枚の地形図（1図葉：縮尺1/250、実地範囲150m×200m）のCADデータ化を終えている。啓蒙・啓発情報づくりには、地理情報システムソフトウェア（ESRI社のArcView、拡張機能として同社のSpatial Analyst、3D Analyst）を用いている。

図-6はCADデータをArcView データ形式に変換し、三次元表示したものである。図-7は、本丸跡に隣接する深沢流域を対象に、観測の終了している胸高直径10cm以上の樹木について表示（濃：針葉樹、淡：広葉樹）したものである。大部分が未調査となっているので、地形と樹木の関わりなど流域の特徴を把握するまでには至っていない。

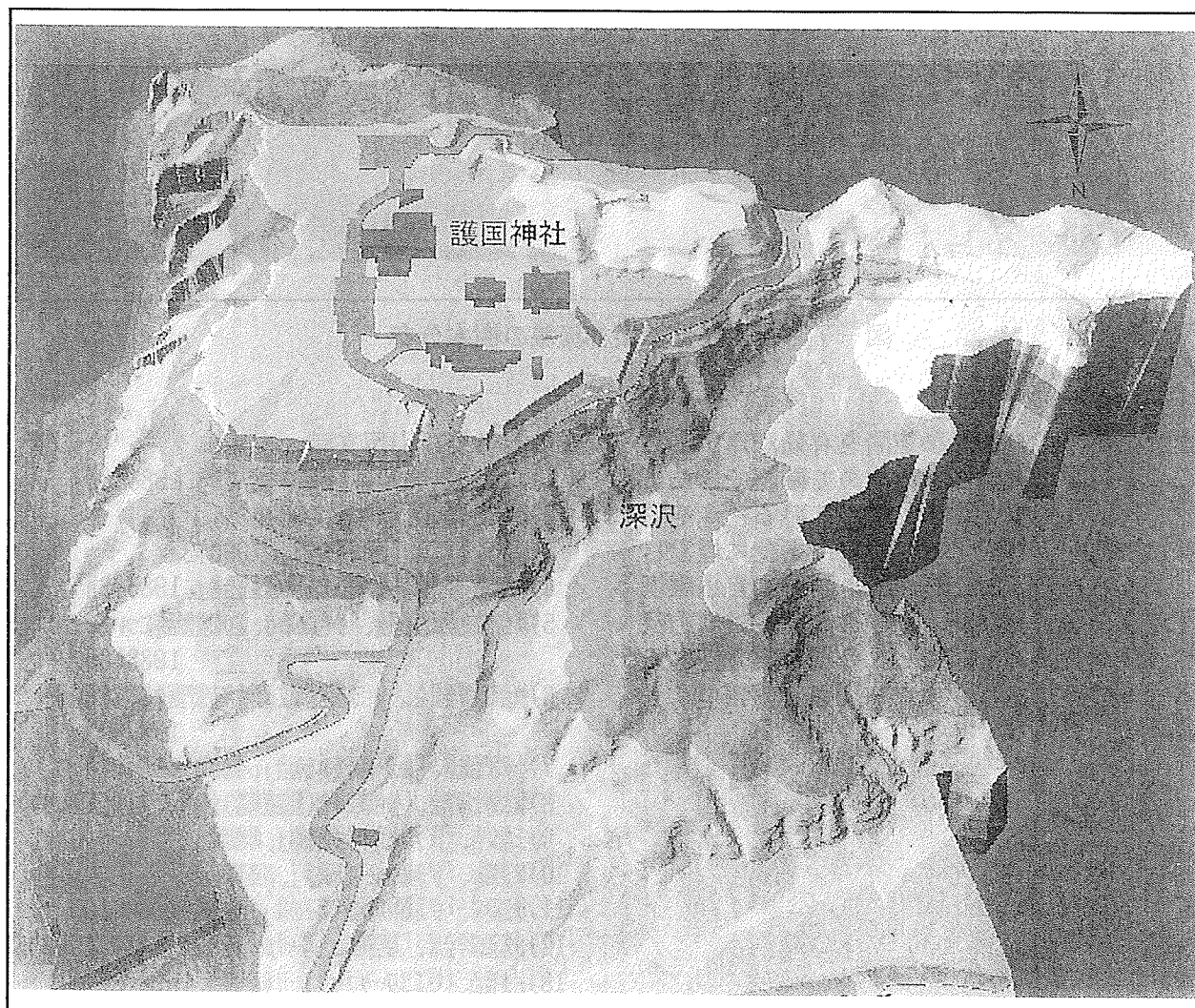
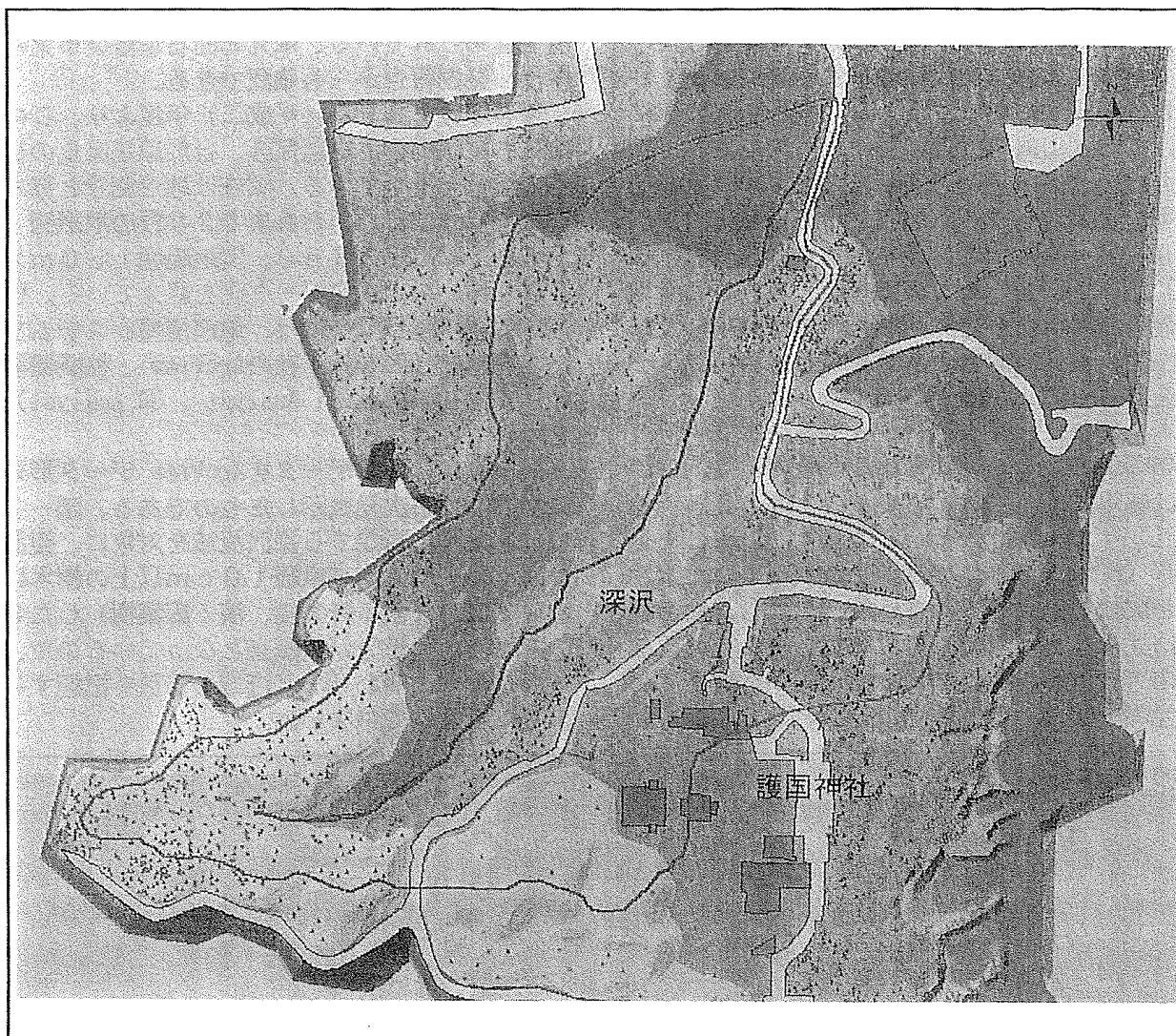


図-6 仙台北城址地域の地形測量終了部分の鳥瞰図



図－7 仙台城址御裏林流域の樹木分布

5：おわりに

まちなかのさまざまな空間を有効利用するために、現況調査に取り組み改めて確認できたことは、貴重な資源を数多く有している社寺空間や保存緑地が、情報化できずに市街化に埋没してしまっていることであった。歴史や自然環境を生かすまちづくりが、地域の潜在的教育力保全につながることを期待し、今後も実効性ある学習資源のほりおこしのため調査と情報づくりを継続するつもりである。

6：参考及び引用文献

- 1) 宮城県宗教法入連協議会、「宮城県宗教法人名簿」、1988年3月
- 2) 仙台市教育委員会、「仙台城」、1967年3月
- 3) 仙台市教育委員会、「仙台城址の自然」、1990年3月
- 4) 仙台市教育委員会、「仙台城三の丸発掘調査報告書」、1985年3月
- 5) 仙台市文化財保護委員会、「仙台城の保存、並びに整備活用について」、1988年8月
- 6) 仙台市教育委員会、「仙台市指定有形文化財大年寺惣門解体修復工事報告書」、1987年2月
- 7) 小林清治監修、「絵図・地図でみる仙台」、今野印刷、1994年1月
- 8) 仙台郷土研究会、「仙台郷土研究（限定復刻版）全6巻」、宝文堂、1980年
- 9) 三原良吉、「茂方崎と大年寺伊達家廟」、相原印刷、
- 10) 伊達篤郎、「伊達家のルーツと政宗」、南郷印刷
- 11) 伊達泰宗、「伊達綱村以降歴代藩主の墓」、針生印刷、1996年10月
- 12) 日本造園学会編、「緑空間のユニバーサル・デザイン」、学芸出版、1998年5月
- 13) 村井俊治、「GISワークブック」、日本測量協会、1998年6月
- 14) 金森・我妻、「仙台城本丸跡 築城期及び修復石垣の発見」、考古学ジャーナル、№456、2000、pp32～37